



歯学部創設30周年



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 五十嵐 武
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>

昭和大学歯学部は創設30周年を迎えました。

香港大学歯学部の臨床歯科医学教育視察

歯科麻酔科 吉村 節

平成20年2月14～15日に、香港大学歯学部における臨床歯科医学教育の実態を視察することが企画され、中村雅典教授(口腔解剖学)を団長として、昨年夏のワークショップに参加したメンバーを中心に宮崎歯学部長、山本教授、馬場教授、倉林准教授、菅沼講師、片岡講師、宮澤講師、馬谷原助教、吉村の10名が参加いたしました。



今回の視察は、昨年夏のワークショップで検討された『これからの昭和大学歯学部臨床歯科医学教育改善』に向け、香港大学の特徴ある卒前教育・卒後教育システムを参考にすべく企画されました。

1日目は、歯学部長の Prof. Lakshman P Samaranayake の挨拶の後、Dr. Dyson により香港大学歯学部の理念、カリキュラムが提示されました。その後歯学教育(PBL)とE-Learningの専門家であるDr. Susan Bridges により香港大学の早期卒前教育の特徴が説明されました。2日目はE-Learningシステムの説明を受けた後、PBL教育の見学グループと臨床教育見学のグループに分かれて香港大学のシステムを視察いたしました。ランチタイムにディスカッションを行い、午後は昭和大学側からわれわれの教育内容のプレゼンテーションを行いました。

1日目の夕刻、場所を変えて、参加者全員で視察内容および昭和大学歯学部のカリキュラムの改善点をそれぞれの立場から率直に話し合い、そのひとつの柱として『低学年からの臨床参加型教育システムの構築』の必要性が確認され、早期の実施に向けて引き続き検討することになりました。



第50回歯科基礎医学会学術大会・総会を担当

準備委員長 上條 竜太郎

「歯科基礎医学会」は日本歯科医学会の分科会で、解剖学、生理学、生化学、薬理学、微生物学、病理学の基礎歯学の6部門から構成される基礎歯学の総合的学会です。伝統ある本学会は、平成20年度、創立50周年を迎え、これを記念して学術大会が50周年記念大会として開催されます。この記念すべき大会を昭和大学歯学部が主管することになりました(会頭・立川哲彦教授[口腔病理学教室])。会期は9月23日から25日まで、有明の TOC 有明コンベンションホールを主会場として3会場で開催されます。例年の学術大会のスケジュールに加えて、50周年記念式典、祝賀会、記念講演を予定しております。記念講演では、ノーベル物理学賞を受賞された小柴昌俊先生(東京大学特別栄誉教授)と細胞死研究の世界的権威である長田重一先生(京都大学医学部教授・分子生物学)にご講演いただきます。50周年記念行事のため、学術大会の規模が例年より非常に大きく、現在本学術大会の開催に向けて、基礎系の関連教室が総力を挙げて準備に取り組んでおります。この記念すべき大会を成功させるために、皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。なお、本大会の詳細については学術大会ホームページ(<http://50th-jaob.showa-u.ac.jp/>)に順次掲載致しますので、ご参照下さいますようお願い申し上げます。

第50回 歯科基礎医学会学術大会・総会

創立50周年記念大会

会期 2008年 9月23日(火・祝)～25日(木)

会場 立川哲彦 昭和大学歯学部 口腔病理学教室

会場 TOC 有明コンベンションホール 東京ファッションビル(TFTビル) 昭和大学上野キャンパス

Japanese English

【市民公開講座】

- 【2008.2.15】第50回歯科基礎医学会学術大会ホームページ公開
- 【2008.2.15】『お知らせとお誘い』更新
 - ・『オアシンポジウム』公開
 - ・『オアシンポジウム』公開

【重要日程】

- 平成20年8月13日(水)……オンラインによる参加登録および出席申し込み開始
- 平成20年6月17日(水)……登録申し込み締切
- 平成20年7月1日(水)……登録申し込み期限者の参加登録および出席申し込み締切
- 平成20年8月5日(水)……最終登録による参加および出席申し込み締め切り

第50回 歯科基礎医学会学術大会・総会 事務局

昭和大学 歯学部 口腔病理学教室
 立川哲彦 準備委員長 上野キャンパス
 〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8
 FAX 03-3784-8555
 E-mail info@50th-jaob.showa-u.ac.jp

選抜Ⅰ期・センター入試 結果報告

口腔生理学教室 井上 富雄

1月27日(日)に平成20年度の歯学部選抜Ⅰ期試験、センター入試(大学入試センター試験利用入学試験)が旗の台キャンパス、大阪会場(新大阪丸ビル新館)と福岡会場(南近代ビル)で行われました。当日は、東京、大阪、福岡のいずれも晴れの天候に恵まれました。選抜Ⅰ期の志願者数は全体で444名となつて昨年よりも72名減少しました。このうち大阪会場には49名、また本年度から新たに設置した福岡会場には35名の志願者がありました。合格発表は1月30日に行われ、60名(男子30名、女子30名)が合格しました。

一方センター入試は、昨年より29名増の172名の志願者がありました。そのうち21名が大阪会場、9名が福岡会場の志願者でした。合格発表は2月7日に行われ、25名(男子11名、女子14名)が合格しました。以上のように選抜Ⅰ期は昨年度に続いて志願者が減ってしまいましたが、私立歯科大学全体の減少率とほぼ同じでした。

また、センター入試は全国的に減少傾向にある中で健闘いたしました。3月15日には選抜Ⅱ期試験が行われます。職員の皆様にはご協力をよろしくお願い申し上げます。



試験	募集人員	出願期間	試験日	合格発表
推薦	23名	H19. 10. 29~11. 6	H19. 11. 11 (日)	H19. 11. 13(火)
編入	若干名	H19. 10. 29~11. 6	H19. 11. 11 (日)	H19. 11. 13(火)
センター	10名	H. 1. 4~1. 23	H20. 1. 19 (土), 20 (日), H20. 1. 27 (日)	H20. 2. 7 (木)
選抜Ⅰ期	55名	H19. 12. 25~H20. 1. 23	H20. 1. 27 (日)	H20. 1. 30(水)
選抜Ⅱ期	8名	H20. 2. 25~3. 10	H20. 3. 15 (日)	H20. 3. 19(水)

D4 CBT 実施報告

CBT 委員長 井上 美津子

2月5日(火)、6日(水)の両日、CBTが旗の台2号館 第6講義室で実施されました。当日は共用試験実施評価機構側から北海道大学の鈴木邦明教授と広

島大学の菅井基行教授がモニター委員として参加されました。今回から机の上にパーテーションを設置したため、他の人の画面が見えにくくなって気が散らない反面、受験生の様子(体調など)がわかりにくい状況でした。幸い2日間とも欠席・遅刻もなく、4年生全員が無事受験しました。試験中の大きなトラブルもなく終了し、モニターの先生方にも昭大生は礼儀正しいとお誉めの言葉をいただきました。

結果は平均点77.9点という良好な成績でしたが、今回も合格ラインを70点に設定していたため、残念ながら再試がでております。受験生のさらなる奮起を期待しています。また、合格者もこれに安心することなく、臨床実習にむけてさらに知識を整理しながら登院に望んでほしいと思います。

H20年度大学院歯学研究科入試実施報告

大学院歯学系研究科運営委員長 中村 雅典

平成20年度昭和大学大学院歯学研究科並びに社会人特別選択の入学試験のⅠ期が12月1日(土)、Ⅱ期が2月23日(土)に行われました。その結果、歯学研究科に20名、社会人特別選択に10名の学生が入学を許可されました。内訳は、基礎教室に11名、臨床教室に19名です。社会人特別選択とは夜間のコースであり、開業あるいは勤務されている歯科医師で学位取得を目指すコースであり、臨床研修医にも道を拓くコースでもあります。新年度は大学院歯学研究科の学生数が総勢106名となります。大学院の期間、しっかりと臨床、研究に励み、これからの歯科医学、歯科医療の先頭に立ってこの分野をリードする人材に育てて欲しいと期待しています。

専門医取得

広報委員 山本 剛

日本矯正歯科学会 専門医取得
中納治久先生

行事予定

広報委員長 五十嵐 武

3月12日(水):昭和大学卒業式・学位記授与式
3月15日(土):歯学部入学試験(選抜Ⅱ期)
3月27日(木):大学院歯学研究科修了式
3月27日(木):歯科医師国家試験発表
3月31日(月):新歯学部5年生 登院式

診療統計(平成19年1月分)

医事課課長 長谷 孝義

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	16,796	730.3	769.3	716.1
入院患者	332	10.7	13.1	11.4

口腔の生態系PBLを体験して

歯学部2年 井口 蘭

PBLは1年生の時も経験しましたが、今回は本格的なPBLだと実感しました。内容も深く、将来活用できる学習内容だったこともあり、調べる段階で次第に知識が掘り下げられ、理解してゆく過程に満足感を覚えました。

班員との議論は活発に行われ、発表は要点が絞られ簡潔に仕上がっており、シナリオに対して「こんな考え方もあるんだ」



「そんなアップ ローチの仕方もあるんだ」といった新しい発見がありました。また、班員の学習成果のサマリーとその発表を参考にし、それを2回目のPBLに活かすことが出来ました。さらに、来年のPBLに活かしていけそうな事柄もありました。

そして、ファシリテータから時々入るコメントは、良い点、悪い点は勿論のこと、それ以外にもPBLのテーマに関する現状のお話もあり、毎回有意義な時間でした。

また、PBLは自ら資料を探し、何が必要な情報で何が不必要なのか、どのようなサマリーが理解しやすく説明しやすいものとなるのかを考えながら作業していかなければなりません。一つの事柄を一つの作品として仕上げるのがいかにエネルギーを必要とすることなのか。専門分野を制覇された先生方によって出来上がっている普通の授業を拝聴していることが素晴らしいことであるということを実感させられました。

口腔の生態系PBLを体験して

歯学部2年 多木 陽子



2年生も後期を迎え、本格的に歯の勉強が始まったこの時期に、今回、口腔の生態系PBLを体験しました。

最初に、討論の進め方や

図書館での文献の探し方についての詳しい説明を受け安心しましたが、やはりこれまでの授業の進め方とはまったく違うものだと感じ、不安な気持ちにもなりました。

実際にPBLが始まってみると、グループ内の全員で意見を言い合うことや、人の意見を尊重して議論を進めること、自分の意見を人に理解されるようにわかりやすく話すことの難しさを経験しました。しかし同時に、グループ内の討論で自分一人では思いつかないような意見がでたり、皆で議論を進め深く理解できたときはとても有意義に感じました。

毎回のサマリーは、どの程度まで調べていけばいいのか、リソースが本当に古い情報でないのか、その考え方が一般的なものか個人的なものかなど不安なことが多くありましたが、自分で手間をかけて調べ、整理することで、知識の定着と理解の深さを実感しました。

未熟な私たちですが、これからもPBLを通して、自分たちで問題点を見つけ解決していく力を徐々に身につけていきたいと思います。

口腔の生態系PBLを体験して

歯学部2年 立川 哲史

今回、口腔の生態系のPBLを体験した素直な感想は、「自分はまだまだ口腔の機能について何もわかっていないのだ」ということでした。中でも、精神の緊張状態で唾液の分泌がどのような関連を有しているのか、という学習項目において、唾液腺が交感神経、副交感神経による拮抗支配を受けない臓器だということがわかったことは、このPBLを通して一番印象に残っている事です。

そもそも、唾液腺は自律神経の拮抗支配を受けて当然だと思っていたので、そのような観点から考察するということが出来ませんでした。しかしながら、他の班員の発表を聞く事や、学習成果のサマリーを読むことによって、この認識は間違いだった事を教えられました。自分にとって何がわからないのかを明らかにし、それを学ぶというPBLらしい事ができたと思います。



私は今回のPBLを体験することによって、自分の誤った認識を正すことや、また別のケースにおいても一切の先入観を持たず、さまざまな観点から考察することを学べました。ここで学んだことは、これから他のPBLを行う時や、将来自分が歯科医になった時に大いに役に立つものだと思います。

教室紹介 口腔解剖学教室

口腔解剖学教室 中村 雅典

当教室は昭和52年4月の歯学部設立と同時に、第一口腔解剖学教室(平成13年に現在の口腔解剖学教室に改称)として開設され、若月英三、滝口励司の両教授が着任しました。現在、江川薫助教授、瀬川和之、中島功の両講師、森陵一、野中直子、佐野恒吉の各助教、上野みゆき研究補助員および兼任講師、特別研究生が在籍しています。大学院生は臨床の教室から現在6名が来て、テーマごとの研究をしています。

教育の担当は富士吉田教育部での細胞の構造と機能A、B、2年生での解剖学、発生学、人体解剖学実習、歯と口の構造(歯の解剖学と口腔組織学)、統合ユニット「顎口腔顔面の発生、構造、機能」、3年生での統合ユニット「歯科材料・技術の実習」での歯型彫刻を担当しています。

研究の内容は、多岐にわたって行っていますが、その根本は生物の、特に口腔内における様々な現象を肉眼的構造だけでなく、それを構成する細胞、分子まで掘り下げて追求することで、生命現象の基本並びに口腔領域の特殊性と普遍性を明らかにしたいと考えています。

現在、幸いなことに学内の基礎、臨床教室や薬学部だけでなく、墨東病院内科、リウマチ膠原病科、近畿大学薬学部細胞生物学研究室、東北大学歯学研究科顎口腔創建学講座、大阪医科大学生理学教室などとの共同研究も進行中です。

私たちの教室のもう一つ大きな仕事に、ご遺体の収集があります。現在、昭和大学歯学部白菊会という献体団体があり、その運営も行っています。学生教育にご自身の身体を無償で提供していただく白菊会会員の方々に常に感謝するとともに、学生には一生懸命実習をして欲しいと教室員一同願っています。



今年度の昭和大学白菊の集い。学生、大学院生に協力していただきました。

招聘教員紹介 Dr. Christoph Goldammer

歯科理工学教室 玉置 幸道



昨年10月1日より、ドイツ・チュービンゲン大学から補綴学講座のクリストフ・ゴードマー先生を本学に招聘し、歯科理工学の研究・教育

に指導を仰いでいます。

チュービンゲン大学は、昨年度に歯科補綴学の樋口講師が1年間留学していたところで、現在も石浦先生が昨夏より留学しているように、相互連携を取っている大学の中でも本歯学部とは密接なつながりのある大学で、補綴学とりわけ補綴材料学の研究では世界的に有名です。昨今、世界的にオールセラミックス修復用素材で注目されているジルコニアの疲労耐久性について藤島講師や堀田講師と共同研究を進めています。また、理工実習についてもアドバイスを頂戴しています。

ゴードマー先生は真面目で礼儀正しく、アルコールも強い30歳チョイ過ぎの若く凛々しい好青年です。文化や言葉の違いに苦しみ(?)ながらも、教室員や学生とコミュニケーションを取ろうと努力しています。ぜひ理工学教室にお立ち寄りの時には声をかけてあげてください。

編集後記

口腔病理学教室 山本 剛

平成19年度もあと1か月を残すのみとなりました。例年に比べて遅く到来した冬の寒さも和らぎ、ようやく数日おきに暖かい日差しが感じられるようになりました。日本ではこの季節を昔から三寒四温と呼び、特に体調を崩しやすい季節として知られています。しかしこの「三寒四温」という言葉はもともと中国や朝鮮半島などの真冬に言われていた言葉であり、「寒」は零下20℃にもなる厳しい寒さのことです。「温」はそれが和らぐことを意味し、実は春の様に暖かくなることを意味するものではないそうです。いつのまにか似て非なるものに変化してしまったと考えられます。この日本版「三寒四温」、花粉の飛来もあいまって体調管理が難しい時期ではありますが、皆様くれぐれもお体に気をつけてお過ごし下さい。

最後になりましたが、学生の試験期間であり大変お忙しい最中、原稿の執筆をして下さった先生方に感謝いたします。また多数至らない点があったことをお詫び申し上げます。